

第100号を迎えて

2004年4月に第1号を発行して以来8年半、ようやくここに第100号を発行することができました。これも私の担当各教室の会員の皆様の、また協会のHPやあるいはインターネットなどでの読者の皆様のご支援ご声援の、そして諸先輩の皆様の有形無形のご支援ご配慮のお陰と心から御礼申し上げます。

第1号の冒頭で述べましたように、太極拳や健康に関する話題を思いつくままに書かせていただきました。また趣味の短歌、写真、篆刻なども随時に織り込ませていただきました。よく“毎月作るのはいへんでしょ”と聞かれますが、私自身としては自分の思いを発表させていただく場として、気楽に、楽しく、書き下ろし、編集することができました。毎月駄文愚作に根気よくお付き合いいただきました読者の皆様に、逆にお礼を申し上げたいくらいです。

太極拳もそうですが、『楽しむに如かず』の心境で、今後も、いつまで続くかは分かりませんが、一步一步進んでゆく所存ですので、引き続いてご愛読いただけますようお願い申し上げます。

100号を記念して3人の方をお願いしてご祝辞をいただきました。お一人は私の太極拳の師であり、また楊名時師家の片腕として長く協会活動を支えてこられた中野完二先生、二人目として、私が太極拳を始めるきっかけを作ってくれた、そしてこの雲の手通信を東京都支部のHPに取り上げていただいた同HP管理人の蒨澤徹師範、そして三人目として、読者代表というか私の生徒さんを代表して瑞江鶴の会の宇留野良子師範に、それぞれお願いしましたので、以下ご紹介させていただきます。



祝「雲の手通信」100号

中野 完二

茶木登茂一師範が手づくりで発行しておられる月刊「雲の手通信」(A4判横ぐみ)が、2012年12月で、第100号を迎えられます。おめでとうございます。

太極拳の教室の会員の方々だけではなく、私にまで贈られ、充実した内容に、私は毎月心待ちにするようになりました。本部道場中野教室で頂戴するだけでなく、時には自宅に郵送していただきました。

以前は2ページ建てだったと思いますが、内容次第では、ページを増やしたり、雲のように自在な編集ぶりを展開し、このところはカラー4ページの、堂々とした、美しい紙面で、いつも感服しておりました。

「トピックス」「閑人閑話」「左顧右眄」など、博覧強記の茶木師範が、さらにご自分で深く掘り下げた内容を、ご自分だけではなく、会員の方々にもお福分けするような姿勢で、教室で話されるような調子で、諄諄と、丁寧に、優しく説いていますので、大変勉強になります。「左顧右眄」など、ぜひ1冊の本にまとめていただきたいものです。

「旅をうたい拳を詠む」も歌集にしてください。

「雲の手通信」100号に拍手喝采します。「百手喝采」と言ったほうが良いかもしれません。

(日本健康太極拳協会副理事長・同東京都支部名誉支部長・本部道場中野教室主宰)

第100号の発刊、おめでとうございます

蒨澤 徹

2004年に「雲の手通信」を発刊されてすぐ東京都支部ホームページへの掲載をお願いしたところ、快く受けていただきました。ありがとうございます。今では、月初の掲載を心待ちにいただける読者も増え、一日でも掲載が遅れると、問い合わせが入る状況です。毎月、月初はホームページのアクセス数も通

常より増加します。管理人として大変ありがたいことと感謝しております。

当初は、印刷版を画像スキャンで取り込み、掲載していました。拡大すると文字も歪み、読みにくいことだったかと反省しております。途中から PDF 形式に変更できたことで格段に読み易さが向上しました。私も、毎号、原稿をいただく度に多彩な内容と楽しい文章に魅かれる読者の一人です。次の号、また次の号と、豊富な情報源を基にして、茶木さんの筆先が更なる展開をみせるのではないかと期待しております。体にご自愛いただき、これからも楽しい記事を魅せてください。よろしくお願いいたします。

(日本健康太極拳協会東京都支部理事・同支部HP 管理人)

気を発する「雲の手通信」

宇留野 良子

「朝食抜いて8キロ減」、雲の手通信 2004年4月第1号トップの話題です。肥満解消の一つとして茶木先生が実践された結果の報告でした。生徒達は実際例を目の当たりにして妙に納得したものです。行く雲が流れるように号を重ね、めでたく100号。まさに「敬服」の一言に尽きる快挙です。武術、健康関連の話題、書籍の紹介、名所旧跡の案内、時には社会問題に一言。先生の視点からの投げかけは、肉体的精神的に老年になりがち生徒達(失礼、私だけかも…?)に大変良い刺激になっています。通信が「気」を発しているのです。

ところで、先生にお尋ねしたところによると、毎号の第一番目の読者は奥様だそうで、内容チェックと校正の役も担っていらっしゃるとのこと。奥様があの優しい穏やかなお顔で原稿を読みながら茶木先生に厳しい批評を下している、微笑ましいお二人の姿を思わず想像してしまいました。お二人の「気」が満ちた雲の手通信、これからも生徒達の手元で益々輝いて良い「気」を発してくれることを期待しております。200号、300号目が楽しみです。

(江戸川区瑞江鶴の会会員・師範)

トピックス 瑞江鶴の会が地域祭に参加

瑞江鶴の会ではさる11月11日(日)に開催された第36回江戸川区東部地域祭に有志が参加、舞台上で八段錦と二十四式太極拳などを披露しました。この催しは同会が練習会場としている同区東部区民館が主催して毎年行われるもので、野外の特設舞台ではかずかずのサークルが競演するので、観客も多く、会の活動を十分にアピールすることができました。【写真; 同会蟹谷幸子さん撮影】



プロバンス会で太極拳の勉強会を実施

清新くすのきプロバンス会の早朝太極拳の参加者を対象とする第2回の勉強会をさる11月17日(土)に清新町コミュニティ会館で開催しました。17名が参加して、楊名時太極拳の由来とその健康効果と題して小生が資料に基づいて1時間ほど話した後、懇親会に移り楽しく歓談いたしました。

左顧右盼～さこ・うべん～ (66) 【第14話 私と太極拳・私の太極拳】

100号記念というほどのことではありませんが、ここで私自身の太極拳についてお話をさせていただくこととしました。

第1章は、私自身の楊名時太極拳歴を書くことといたします。また第2章は主として現在私が自分の担

当教室で指導をしている楊名時健康太極拳についての理念やその指導内容などについて書く予定です。

第1章 私と太極拳

1) 56歳からはじめた太極拳

太極拳というものに興味を持ったのはかなり昔のことです。仕事で海外あちこちに出かけることが多かったので、中国や台湾などでは朝の公園などで優雅にやっている姿にいつも出会いましたが、いかにも中国的な情景で、チャンスがあれば覚えてみたいと思っておりました。

それからけっこう歳月は流れてしまったのですが、1991年(平成3年)に思いがけず、私の住むマンションの至近にある「清新町コミュニティ会館」に楊名時太極拳のサークルが誕生することになり、さっそく夫婦で参加を申し込みました。

このサークルは落澤徹さん(現師範・東京都支部理事)が発起人となって自ら作ったビラを近隣に大量に配布して参加者を集めたサークルです。近くの葛西スポーツセンターなどで指導をされてきた故豊島なつ江先生を講師として同年の7月に正式に「清新鶴の会」が発足しました。これが私の太極拳私史の第1ページとなったわけです。小生56歳、ずいぶん遅いスタートでしたが、ともあれこのとき始めることができ本当に良かったと思います。

故豊島なつ江先生は楊名時師家の直弟子としてその付託にこたえて、江戸川区、江東区、荒川区などで、多くの教室を創設して指導をされ、多くの弟子を育てられた素晴らしい先生でした。1994年(平成6年)には、豊島先生に率いられて、ほかの教室の先輩方に交じって、3000人の仲間が集った「伊勢神宮奉納演武全国大会」に参加させていただいたのも今となっては大変懐かしい思い出です。

個人的なことですが、1997年(平成9年)から1999年(平成11年)にかけてベトナムのホーチミンで働きましたので、この間教室は休会いたしました。代わりに現地で太極剣や太極扇を習うことができました。これはこれでよい収穫となりました。

2000年(平成12年)5月に落澤徹さんが師範に昇格されまして、豊島先生が清新鶴の会の指導を7月から落澤さんに譲られました。これに伴って発足以来落澤さんが務めてこられた会の代表の仕事が私が引き継ぐこととなりました。私もこの時に準師範に昇格させていただきました。また6月には永年のサラリーマン生活から完全に解放されて年金生活に入りました。

2) 習いつつ教える立場に

その時を待っていたように、豊島先生から亀戸スポーツセンター教室(写真右)の助手を務めるようお話があり、10月からお受けしましたが、これが私の指導する立場となった第1歩となりました。教えることがいかに自分の勉強になるかということもよく分かりましたが、人様に教えることの難しさを痛感し、さらに勉強したいと思い、豊島先生にお断りしたうえで、中野完二先生の御茶ノ水教室に2001年(平成13年)の1月に入会させていただきました。おかげさまで太極拳を見る目がさらに開け、中野先生始め諸先輩から教わることもたいへん多く、教えるうえでも、すこしづつ自信が持てるようになってゆきました。



2001年(平成13年)春ごろから豊島先生が体調を崩され、8月には入院され、この亀戸教室と篠崎鶴の会(現・瑞江鶴の会)については、私が代行するようになりました。残念ながら豊島先生は2003年(平成15年)8月1日に永眠されまして、そのまま両教室については私が引き受けることとなり、今日に至って

いるわけです。

同年9月から、日帰り温泉施設の東京健康ランド(江戸川区船堀)で月1回の健康太極拳教室が開設され、その講師を務めました。この会は同所が閉鎖された2012年の2月まで続けました。

また、同年10月には出身会社の新日鉄のOB会で太極拳教室を開きました。この会も現在まで順調に続いておりますが、指導は満十年を期に昨年に勇退しました。

3) 「雲の手通信」の発行

各教室を指導していく中で気が付いたのですが、ただ口頭で説明しているだけでは、なかなか理解されにくい、浸透しにくい部分があるということでした。何か書いたもので、生徒さんにわかりやすいように発信しようと思って作ったのが「雲の手通信」です。第1号は2004年(平成16年)の4月でした。

“このお便りは私が担当している太極拳教室のみなさんにこれから毎月お届けいたします。太極拳や健康についての様々な話題や、私自身のメッセージなど気ままにお伝えしようと思っております。題名「雲の手通信」は太極拳の「雲手(ユンショウ)」からとりました。手は雲の流れのように、足は雲の上を踏むように、無心に舞うこの形がとても好きなのです”とはこの第1号の冒頭の言葉ですが、おかげさまで8年余このように気ままに書き続けることができました。

さいわい同年初めに開設された東京都支部ホームページにも第1号からずっとアップいただけたことで、読者層が全国にひろがりました。さらには、理由はよくわかりませんが、「雲の手通信」、あるいは「茶木登茂一」で検索すればすぐ見られるようにもなりました。いつもたいへんたくさんの方のアクセスがあるようでびっくりしています。

4) 師範に昇格

2004年(平成16年)の10月10日には、お茶の水中野教室の中野完二先生のご推薦により、この日満80歳の誕生日を迎えられた楊名時師家による審査を受け、師範に昇格することができました。この時には妻の中子も、清新鶴の会のお仲間とともに落澤徹師範の推薦を受け、同じく師範となりました。ともに太極拳を始めて13年目の快挙でした。太極拳を始めるきっかけを作ってくれた、そして爾来ずっと指導を受け、またお付き合いいただいている落澤さん、指導者への道を開いてくれた故豊島なつ江先生、そして心技体の太極拳を教えていただいた中野完二先生、そしてすべてのお仲間感謝してお免状をいただきました。

5) 東大島鶴の会を設立

2007年(平成19年)には、江東区の東大島文化センターを会場とする「東大島鶴の会」を立ち上げました。この会も順調に推移して今年3月には5周年を迎え会員も40名を超えるに至りました。また2007年(平成19年)には、亀戸南口のショッピングモール“サンストリート”から声がかかり落澤徹師範を中心に2度の体験会を催した後、10月から毎週1回の野外太極拳が開催されるようになりました。鶴岡睦子師範、松浦美恵子師範、深井正良師範、それに私の4人で指導に当たりました。事業主さんの都合で2010年7月に閉会しましたが、この間計95回、延べ約3500人が参加いたしました。(以下次号に続く)

旅をうたい拳を詠む

100号記念詠

ゆるゆると歩み来れど時満ちて百寿迎えし雲の手通信
百峠越えれど道はなお遠し倦まず焦らず一步を重ねん
青空に朋に紅葉に有難う今朝もゆったり今朝の拳舞う

【写真：槍穂高遠望】

